

# 焼き畑でSDGs考える

弘前大教授、天王寺高生に講義



オンラインで講義する杉山祐子  
さん＝青森県弘前市の弘前大

高校生が大学の学びにふれるプロフェッサー・ビジット（朝日新聞社主催・代々木ゼミナール協賛）が12日、大阪市阿倍野区の府立天王寺高校であった。生人類学を専門とする杉山祐子・弘前大教授が「**焼き畑**で

森林がなくなるの？ 環境と暮らしの持続性をアフリカ農村から考える」の題で1～2年生14人にオンラインで講義した。講義で杉山さんは、1983年にアフリカ・ザンビアの焼き畑で生活している

村に住み込んで実施したフィールド調査を紹介した。焼き畑には樹木を切って燃やし、森林を破壊するイメージがあるが、「有機物を集めて焼くことで痩せた土地に有機物を補い、除草や害虫除去の効果もある」と杉山さん。多様な作物ができる畑を作れるうえ、木の早い再生を促せることがわかったと説明した。

村人は林の再生に合わせて30年ほどで焼き畑をする場所を変えることで、生活を安定的に維持してきたという。環境と暮らしの持続性を考えるヒントになり、SDGs（持続可能な開発目標）の道にもつながると強調した。

生徒たちは「焼き畑が環境に寄り添った方法であることを初めて知った」などと感想を述べた。